

93 誌上発表

腰背考 (一)

—『素問』『靈樞』を中心として—

山田 恵美, 吉岡 広記

日本鍼灸研究会

腰

腰は、『素問』脈要精微論に「腰者腎之府」とあり、また『靈樞』陰陽繫日月に「腰以上為天，腰以下為地，故天為陽，地為陰」とあるように、その変調は腎を中心とした陰に関わりの深い蔵府（下焦に位置する肝と小腸，中焦の脾^{*1}）と経脈（足の三陰三陽脈，手太陽脈）の問題として考えられていた^{*2}。『素問』刺腰痛篇には、足の経脈を含む16脈における腰痛の様態と刺すべき経脈や部位が論じられている。このほか、熱病や痺，痿，厥，瘡，脹，ならびに七情の過多に因る腰の證状が諸篇に散見され^{*3}，わずかに脈状も見られるが^{*4}，病因論はいまだ十分に確立されていない。

背

背は、『素問』金匱真言論，脈要精微論，『靈樞』陰陽繫日月，本藏などから、五蔵では肺の領域とされ、また腰に対しては陽部と認識されていたことがわかる^{*5}。それ故、肩背痛は主に肺の病とされている^{*6}。このほか、肩背を流注する足太陽（絡，筋）や手太陽（脈，筋），手陽明（脈，筋）の病證ともされている^{*7}。また、背は表裏関係にある胸の府とされ、上焦部で陰陽関係にある心の證たる胸痛が肺の領域たる背に引き、逆に肺（背）から心（胸）へと病が及ぶことから、相互に影響しあうと考えられていたこともわかる^{*8}。肘後の寒熱により肩背部の寒熱を診る方法や脈診が見られるが^{*9}，腰ほどはまとまった論はない。

注（『素問』→S，『靈樞』→L，数字→篇番）

*1 L75「腰脊者，身之大關節也」に拠るか。

*2 腎：S17, 36, 44, 46, 50, L8, 20, 47. 肝：S10. 脾：S32. 小腸：L35. 太陽：S31, 35, 36, 41, 49, L10, 26. 少陽：S41, L26. 陽明：S41, L26. 少陰：S41, 49, L10（別），13（筋），26. 厥陰：S36, 41, 45, L10, 26. 太陰：S41, 63（絡）. 手太陽：S45. その他：S60（八髎），L36（髓液虚），66（虚邪）。

*3 熱病：S31（太陽），32（脾）. 痺：S10. 痿：S43（腎）. 厥：S45（厥陰，手太陽），46（腎）. 瘡：S35（太陽）. 脹：L35（腎）. 邪：S63（絡），L20（腎），66（虚邪）. 七情：L8（腎）。

*4 S46「尺脈羸常熱者，謂之熱中，腰膀疼」。

*5 S4「病在肝，俞在頸項……病在心，俞在胸脇……病在肺，俞在肩背……病在腎，俞在腰股……病在脾，俞在脊」，S17「背者胸中之府……腰者腎之府」，L41「腰以上為天，腰以下為地」，L47「白色……好肩背厚者肺堅，肩背薄者肺脆」。

*6 S19「秋脈……太過則令人逆氣而背痛」，L10「肺手太陰之脈……是主肺所生病者，欬上氣……氣盛有余則肩背痛……氣虚則肩背痛寒」，S22「肺病者，喘欬逆氣，肩背痛，汗出，尻陰股膝腠脇足皆痛」，S38「脾欬之状，……陰陰引肩背」，「腎欬之状，欬則腰背相引而痛」は，欬（肺）が主体と見るべきであろう。L20「邪在腎，則病骨痛陰痺，陰痺者，……腰痛大便難，肩背頸項痛」，L77「風從北方來，……內舍於腎，外在於骨与肩背之筋」では腎の病としているが，少数派である。

*7 S63「邪客於足太陽之絡，令人頭項肩痛」，L10「大腸手陽明之脈……是主津液所生病者……肩前臑痛」，「小腸手太陽之脈……是動則……肩似拔，臑似折。是主液所生病者……肩臑肘臂外後廉痛」，L13「足太陽之筋……其病……脊反折，項筋急，肩不舉」，「手太陽之筋……其病……繞肩甲引頸而痛」，「手陽明之筋……其病……肩不舉，頸不可左右視」。

*8 S22「心病者，胸中痛，脇支滿，脇下痛，膺背肩甲間痛，兩臂內痛」，L4「心脈……微急為心痛引背」，「肺脈……微急……引腰背胸苦」，L10「肺手太陰之脈……是主肺所生病者……煩心胸滿」。

*9 L74「肘所独熱者，腰以上熱，手所独熱者，腰以下熱，肘前独熱者，膺前熱，肘後独熱者，肩背熱，臂中独熱者，腰腹熱」，S18「寸口脈，中手促上擊者，曰肩背痛」。